綱敷天神社（つなしきてんじんしゃ）　社報

喜多埜（キタノ）

第二〇四号

日本初の商業ビール製造　百五十年

日本における、日本人の手による初の国産の商業ビールは、現在の大阪市北区堂島一丁目四ー三〇、現今北新地と呼ばれる地域にあった、「渋谷(しぶたに)ビール」が第一号といわれています。今月はその渋谷ビールが明治五年(一八七二)に開業してちょうど百五十年となります。

天満の綿業商・渋谷庄三郎は、それまでの輸入品のビールや、外国人の手による醸造、実験室程度のビールではなく、純粋に日本人の手による一般大衆にも親しまれるビール醸造を志し、堂島の地に醸造所を構え、明治五年に醸造を開始しました。これが国産の商業ビール第一号といわれています。

しかし、当時の日本人にはその苦味がなかなか受け入れられず、赤字経営が続き、開業から九年後の明治十四年（一八八一）年に渋谷が亡くなると、残念ながら醸造所は閉鎖されました。

しかしその後、各地で文明開化の象徴たるお酒としてビール需要が徐々に高まり、明治十六年の日本のビール総生産量は二〇八キロリットルだったのが、三十年には六五七一七キロリットルと、実に十四年で三百倍以上の需要増となり、現代に至っては一億九千万キロリットル以上で、日本人一人につき年間一リットル以上を飲んでいる計算になります。まさに日本のアルコール飲料の主役といえます。近年では当宮にお供えになられるお酒もビールでお供えされる方も増えて参りました。

そうしたビールの発展も、渋谷ビールが熾した一灯から始まったのだと思えば、大阪梅田の歴史の大きな一頁といえます。ちなみに、渋谷ビールの跡地には現在も石碑が残されており、そこから一番近くでビールを飲めるのは、当宮の御本社横で長年営業をされ、近年移転された「御岳さん」というお蕎麦屋さんです。

現在はコロナ禍の為、飲食は控えられる状況ですが、百五十年の節目の本年、コロナ禍が明けましたら、ビールと大阪梅田の歴史に思いを馳せつつ、コロナ禍で厳しい状況である飲食店に賑わいが戻る事を願いたいものです。

今月の御朱印の受付について

当社報編集時点では、コロナ禍の蔓延防止等重点措置が再三の延長となっている事から、茶屋町の御旅社で土日午後に授与しております御朱印は書いたものをお渡しする形でのご対応を継続させて頂きます。なお、今月中に措置が解除となりましたら、御朱印帳への直書きも再開させて頂きます。再開案内につきましては当宮のツイッターにてご案内させて頂きます。

当宮戦前史料の寄贈について

先月廿五日、鳥取にお住まいの近藤さまより、昭和二年(一九二七)に、当宮の社格が昇進される際に撮影された貴重な写真史料をご寄贈頂きました。当宮は大阪大空襲により社殿はじめ資料類の多くが焼失しており、戦前の史料は大変貴重なものです。改めて厚く御礼申し上げる次第です。また当社報をお読みの方で戦前、昭和中期までの当宮や、梅田界隈の史料をお持ちの方がおられましたら、ぜひご一報頂ければ幸いです。

授与品の初穂料改定について

昨今の物価高、燃料高の影響を受け、当宮の御守、御神札などを奉製頂いている奉製所においても、奉製部材などの値上がりが著しい状況である為、来月四月一日より、当宮の守札全般の初穂料を改定させて頂きます。世情鑑みまして何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

今月の暦

【祭礼】
上巳祓(三日)…神事のみ　ひなまつり
春季皇霊祭(廿一日)…神事のみ。祖先崇拝。豊穣祈願
菜種御供(廿五日)…神事のみ　御旅社

【節気】
啓蟄(五日)…冬籠りの虫が目を覚ます頃。菰焼き
春分(廿一日)…昼夜等分の候

【雑節】
春の社日(十六日)…産土神を詣でる。ボケ封じの御縁日
春の彼岸(三月十八日～三月廿四日)　お墓参り
旧初午(六日)…旧暦のお稲荷さんの縁日。商売繁盛

【大安】
三月一日、六日、十二日、十八日、廿四日、卅日

【祝日】
春分の日(廿一日)

【旬】
［野　菜］菜の花、山菜類、ひじき、アスパラガス、空豆
［果　物］イチゴ、キウイ、中晩柑橘類、
［魚介類］ホタルイカ、タイ、ハマグリ、ニシン、イカナゴ
［その他］菜の花、ツクシ、牛乳、マッシュルーム

～綱敷天神社SNS、地図サイト～

Twitter

Facebook

当宮地図
Google MAP

編著　綱敷（つなしき）天神社　禰宜（ねぎ）（御旅社　神主）
白江　秀知